

市民の横顔 FACE

人形づくり、
それは私の生きがい

人間国宝 秋山信子さん

4月22日からラブリーホールで
開催される「創作人形展」秋山信
子と弟子たち」。今年88歳を迎
えた市内在住の秋山信子さんは重
要無形文化財保持者（人間国宝）
で大勢のお弟子さんに慕われ、今
も人形づくりに励んでいます。

幼いころから病弱で、外で遊ぶ
より室内で過ごすことが多かった
という秋山さんは昭和30年、27歳
のときに大林蘇乃先生に師事し、
本格的に人形づくりを始めること



8年には重要無形文化財保持者に
認定されました。

これまでに作った人形は250か
ら300体で、ひとつの人形を完成
させるのに3か月以上を費やしま
す。「どんな人形を作るか、その発
想は」と伺うと、「自分が感動した
ものを形にしています」との返事が。
沖縄やアイヌのほか、中国などの少
数民族にも魅せられ、数多くの作
品を残しておられます。「自然の恵
みに感謝する彼らからは、神様と人
間の交流のようなものを感じます。
温かく心が豊かなところは共通して
います」と秋山さんは力説します。
「人形づくりで一番大切なものは『心』。それはどんな些細なことでも見逃さない繊細な感覚を持つこと。例えば木々の揺れにも、そこから感じるもの、与えられるものがある」という大林先生の言葉は今も心に留められています。

に。昭和
34年に日
本伝統工
芸展に初
出展で初
入選され
たのを機
に毎年出
展、平成

また、「美しい」と『きれい』
は似て非なるもので、『きれい』は
表面的なきらびやかさ、『美しい』
は内面からにじみでるもの。外面
ではなく、内面からにじみでる美
を人形の世界でも感じ取っていた
だけたら」と秋山さんは語ります。
「これまでは外の世界を作ってきた
ので、地元大阪や奥河内のもの
も作りたい」と話す秋山さん。創
作人形展では高向玄理たかむねのりの人形のお
披露目もあるとのこと、今後ど
んな人形が生み出されるのか、楽
しみはまだまだ尽きません。

創作人形展 秋山信子と弟子たち

～併催・旅の記録 - 中国少数民族衣装展～

とき 4月22日(金)～27日(水)午
前10時～午後7時(27日は午
後5時まで)

ところ ラブリーホール

※当日直接会場へ。

問い合わせ ふるさと文化財課

